

謝 辞

石巻地域にも壊滅的な被害をもたらした東日本大震災から4年が経ちました。

この間、目に見える形で復旧・復興は進んできました。街を埋め尽くしていたがれきの処理も終わり、土地のかさ上げや復興住宅の敷地の造成、被災した建物も徐々に再建され、災害公営住宅の建設も進み、住民同士の交流も生まれています。魚市場や水産加工場の建設も進み、石巻線の浦宿－女川間の運行再開に続き、5月には仙石線の全線再開されました。しかし、まだ本格的な復興には至らず、大半の被災者の方々は依然として仮設住宅で不便な生活を強いられています。災害公営住宅でも外に出る機会が少なく生活習慣病等が心配されています。

当所では、飲食店関係の許可手続きや廃棄物の不法投棄防止等に取り組みただけでなく、被災者生活支援活動を進めるにあたっては、被災者の健康の保持・増進や、地域で安心して暮らせるコミュニティの再構築を目指し、市町等と課題を共有し連携して、多角的な視点を持って総合的に支援することを目的に、本年度も各市町担当の保健師を配置し、タイムリーな情報把握と市町への情報提供、要望への対応を行いました。各市町との課題共有等を行う会議を開催したり、健康調査への協力支援も行いました。今後も市町の実情に応じたきめ細かな対応と中長期的な支援が必要です。

4年目の事業を進めるに当たりましては、研修会に快く協力いただいた講師の方々、各種連携会議に出席し貴重な資料や有意義なご意見をいただいた市町・団体の方々、また、復興支援ニュースの取材に応じていただいた方々など、多くの皆様から、ご協力をいただきました。皆さんのおかげで、4年目の活動を実施することができました。あらためて感謝申し上げます。特に、新潟県からは、保健師を派遣していただき、健康調査の分析など健康支援業務に携わっていただきました。佐藤さん、古海さん、清野さん、飯田さん、鈴木さん、太田さん、深田さん、井上さん、菊地さん、本間さん、ありがとうございました。

5年目に向けて、仮設住宅から復興住宅や自立再建した家への移転が進んでおり、新たなコミュニティが形成されてきています。それに伴い、市町においては、地域包括ケアなど将来を見据えた医療介護福祉システムの構築を進めています。当所としても、地域の方々や市町、関係団体の声に耳を傾け、寄り添いながら、石巻地域の復興に貢献していきたいと考えています。

今後とも、当所の活動にご協力をお願い申し上げます。

平成27年6月30日

宮城県東部保健福祉事務所 所長 寺嶋 則雄